

公益社団法人やどかりの里 寄付のお願い

「誰も取り残されない」まちづくりを実現していくために

やどかりの里は、1970年、病気がよくなっても精神科病院での入院が余儀なくされていた人たちの「地域であたりまえに暮らしたい」という願いから出発し、多くの人たちの支えによって活動を存続させてきました。現在、就労支援事業所、グループホーム、地域活動支援センターなど活動拠点をさいたま市内に点在させ、300人以上の人たちが利用しています。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大と物価高騰の煽りを受け、厳しい状況が続いています。一方で、暮らしづらさを抱えつつも必要な支援に繋がっていない人たちが潜在し、「つなぐ・つくるプロジェクト」の取り組みも進めています。小さなつながりをつなげながら「誰も取り残されない」まちづくりを目指しています。

事業運営への支援

やどかりの里は、相談支援事業所、グループホーム、就労支援事業所等運営しています。COVID-19の感染拡大により、これらの運営に様々な影響をもたらされています。行政からの運営費は利用に応じて支払われる「日額」「利用人数払い」によるため、COVID-19の感染対策として密を避けるべく1日の通所者の人数を調整したり、感染や感染疑いによるお休みになどで運営費が左右されます。衛生用品が日常にかかっている上、昨今の物価高、光熱水費の高騰によって運営が圧迫されています。COVID-19の収束も見えず、光熱水費のさらなる値上がりも見込まれ、厳しい財政状況が続きます。事業を運営を安定させ、1人1人の暮らしを支え続けられるよう、幅広い支援を求めています。

「誰も取り残さない」まちづくりにつなげていくために

「つなぐ・つくるプロジェクト」は、やどかりの里が発起人となってスタートしました。やどかりの里の活動拠点もある見沼たんぼ周辺の地域で、自然と共生してきた文化を学びながら、自然を守り食とエネルギーとケア（F E C）が地域で循環する仕組みをそこに暮らす人たちと手を取りながら模索しています。具体的には、「移動式太陽光発電機」のシステムの活用紹介やリサイクルコーナー、カフェを設けたり、自然栽培野菜などの販売、保健師などによる「まちなか保健室」を用意し、気軽に相談したりF E Cに関心が持てるような地域巡回の企画を行っています。人と自然、人と人が繋がっていくことで暮らしづらさを抱える人たちに必要な支援が行き届くことに重ねていきたいと考えます。

やどかりの里が活動を開始して半世紀が過ぎました。従来からの困難が解消しているわけではありません。その人の願いや暮らしを不十分な制度の中にとどめさせないよう、1人1人が生き生きと暮らせる社会の実現に向けて活動を創っていきます。引き続き応援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2022年10月

公益社団法人やどかりの里
代表理事 増田一世